

県内初の快挙、溶接甲子園2位

1本のビードに打ち込んで、県央工業高校、家坂繁樹君

新潟県立新潟県央工業高校機械工作部の三年生、家坂繁樹君（一七）が、三日に愛媛県新居浜市のも

づくり産業振興センターで開かれた「第三回全国選抜高校生溶接技術競技会」の新居浜（溶接甲子園）の被膜アーク溶接部門で二位入賞（優秀賞）を果たした。家坂君は二年連続の溶

接甲子園出場、八十点満点中七十九点の得点で、新潟県央工業高校だけでなく、県内の高校では初の入賞となった。

溶接技術の向上と技術者の育成を目的とした大会で、全国の都道府県大会地区大会で優秀な成績を残した高校生が出場する。被膜アーク溶接部門は十九

人の出場で、家坂君は県大会を満点の一位、関東甲信越大会を二位で通過して全国大会に出場、「ほぼ一〇〇%の全力」を出し、得点は非公表ながら八十点満点中七十九点と考えると、一位と僅差での二位入賞だった。

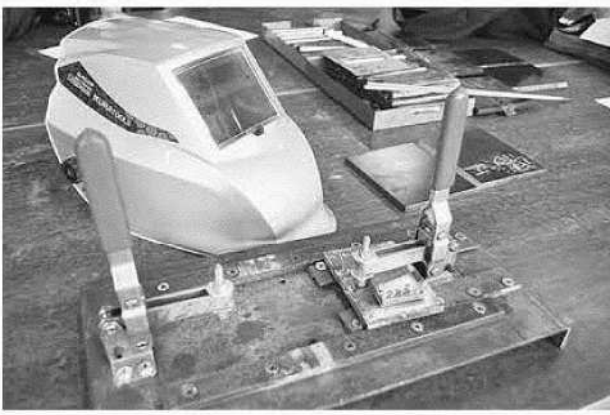
良、変形などを減点方式で、裏面の面について加点方式で採点する。家坂君の作品は表面の加点で五点満点中四点だった以外は満点、平均点の六九・二点を約十点上回った。

十二月に県大会、翌年四月に関東甲信越大会という年をまたぐスケジュールで県内の高校生の出場機会は二回。教諭の勧めで溶接を始めて約半年で初出場した前回大会では緊張もあつて入賞を逃した。その悔しさをバネに、県大会二位以内、関東甲信越大会四位以内の溶接甲子園出場に向け通算で五百個以上の課題をこなす猛練習や、新潟市のテクノスクールまで教えを乞いに通うなどして、県大会は満点の一位、関東甲信越大会も一点差の二位で通過したほどの、正確で美しいビードで溶接する技術を身につけた。

家坂君は溶接甲子園二位の結果について「上位の手応えはありましたが、全力を出し切れませんでした」と話しながら、僅差で優勝を逃したことに「少し悔しい」と素直に話していた。

風間忠樹顧問は「器用で前向き、努力家の面もある」と手放して教え子の快挙を喜んでいた。

家坂君は卒業後、溶接関連の企業への就職を目指して「自分の力でロボットに負けない技術をも身につけたい」と技術向上に意欲を見せていた。



ミリメートル、縦一五〇トル、横一二五ミリメートルの鋼板を制限時間二十分以内でつなぎ合わせ、「ビード」と呼ばれる溶接跡の波形や、溶け込み不

（外山）

